

調査結果のとりまとめ一覧表(議員定数)

参考資料2

	議員定数について					
	意向	住民代表機能の維持	執行部に対する監視機能・政策提言機能の強化	これまでの削減実績	類似都市との比較による妥当性	その他
公明党	現状維持とすべき	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の声を届ける責務がある中、削減することで世代・性別の偏りが生じる可能性がある。 ・削減により、一部議員への業務集中や活動負担の偏りが生じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議会は予算審議、条例制定、行政監視、政策提言など多岐にわたる機能を担う中、定数27名であれば、委員会ごとに同数議員が分担して対応できる体制が維持される。 ・本市の場合、3常任委員会の構成(9名×3→27名)は議会運営上、均衡性が保てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・過去の削減実績の観点から、既に段階的に削減してきたため、これ以上の削減は制度的限界。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均を見ると、全国市議会議長会の調査によると、人口20～30万人未満の市の平均定数は30.8人。人口10～20万人未満の市の平均定数は約25.4人。 ・本市は地理的多様性(海・山・市街地・農村部)を考慮すると、代表性の確保に必要な定数と言えるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的に全国的な傾向として、市議会の定数は「奇数」が一般的かつ制度的に望ましいとされている。 ・本市の場合、議案採決時に議長は賛否に関わらないため、賛否同数になる可能性がある。議長の裁決に委ねられるため、議長の政治的立場が問われる事態を招きやすい。 ・面積・地域課題の多様性から、他市と同列に扱うべきではない。
誠和	減らすべき(1減)	<ul style="list-style-type: none"> ・議員定数を27人から26人に削減(約3.7%減)する場合、住民代表機能への影響は限定的と考えている。現状、欠員1の26人で運営されている。 ・人口と議員定数の平塚市と小田原市の比較 小田原市は平塚市より人口が約7万人少ないにもかかわらず、定数は小田原の方が1名多いという逆転現象が起きている。結果として小田原市の方が議員配置は手厚くなっているが、平塚市の議員は小田原の議員の約1.4倍にあたる市民を担当している計算になる。平塚市議会の住民代表機能が他市議会より劣っているとは思えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議員定数を27人から26人に削減(約3.7%減)する場合、住民代表機能への影響は限定的と考えている。 ・タブレット導入やAI利用により、個人差はあるものの、情報の多角的入手と分析が容易(要検証)となっており、議員定数減以上の機能強化を図ることが可能と認識している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議長に裁決権がないため、可否同数での議長裁決を避けるためにも、定数は偶数が望ましい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉市や秦野市と同等の割合で妥当と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状欠員1の26人で市民より不満の声を聞いていない。
誠新	現状維持とすべき 減らすべき(1減)	<ul style="list-style-type: none"> ・面積を考慮すると現状維持。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の委員数は9名で統一できる。 	—	<ul style="list-style-type: none"> ・平塚、茅ヶ崎に比して多い。 	—
維新の会・次世代おだわら	減らすべき(1減)	<ul style="list-style-type: none"> ・小田原の人口減から考えると一人減でも維持できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状26人態勢で維持できていると考えられるので。 	—	—	—

	議員定数について					
	意向	住民代表機能の維持	執行部に対する監視機能・政策提言機能の強化	これまでの削減実績	類似都市との比較による妥当性	その他
志民・ミモザの会	増やすべき 現状維持とすべき	・議会は多様な市民の声を行政に届ける住民代表機関であり、地域や立場の異なる意見を議会に反映させる役割を持つ。人口減少を理由に定数削減を進めた場合、議会に届く声の多様性が損なわれる可能性がある。	・地方分権が進む中で、議会には行政に対する監視機能に加え、政策提言や政策立案の役割がより強く求められている。行政の事業や予算は年々複雑化しており、十分な審議や調査を行うためには一定の議員数が必要であるとの考え方がある。	・これまで議員定数の削減が行われてきたが、その評価については、削減そのものを目的とするのではなく、議会の機能がどのように維持・発揮されているかという観点から検証することが重要であるとする。・議会は、多様な市民の声を行政に届ける住民代表機関であると同時に、執行部に対する監視機能や政策提言機能を担っている。行政課題が複雑化・高度化する中で、こうした議会機能を十分に発揮できる体制が確保されているかという視点から検討する必要がある。	・県内の類似規模の市と比較すると、本市の議員定数は概ね妥当な水準にあると考える。また、市域の面積や地域特性を踏まえると、人口減少のみを理由に定数削減を行った場合、議員一人当たりが対応する地域や市民の範囲が広がりきめ細かな対応が難しくなる可能性がある。・さらに、議会は多様な市民の意見を行政に届ける住民代表機関であることから定数削減によって議会に反映される意見の多様性が損なわれないかという点も重要である。・議員定数については、単に人口や財政だけで判断するのではなく、議会が果たすべき役割を踏まえ、慎重に検討する必要があると考える。	—
進民の会	増やすべき 現状維持とすべき	・1人でも多くの民意を市政に反映させるため、またさまざまな背景を持つ市民が立候補しやすい環境を整える観点からも、より多くの議員定数を確保することが必要。・議員定数が少なくなるほど、議会の多様性が損なわれ、少数意見が届きにくくなると思う。	・現状においても条例の改正漏れを見落とす事例が見られるなど、議会としての監視機能が十分に発揮されているとは言い難い。行政課題が複雑化する中で、執行部に対する監視機能をより強化していく必要がある。・議員一人一人が異なる経験や専門性を持ち、また異なる市民の声を背景に活動していることから、議員の視点が多様であるほど、行政に対する監視や政策提言の幅も広がる。こうした観点からも議会の監視機能及び政策提言機能を高めるためには、より多くの議員定数を確保することが重要であり、定数を減らしたほうが、より監視機能・政策提言機能が強化されるとは考えにくい。	・削減は「実績」ではないと考える。・これまで段階的に議員定数の削減が行われてきたが、その結果として住民代表機能の維持、執行部に対する監視機能や政策提言機能、市民の市政参画等にどのような影響があったのかについて検証が必要ではないか。特に、議会と市民との距離がどのように変化したのかという点は重要であり、その評価は議会だけでなく、市民の視点からも行われるべき。	・単純な人口規模による比較だけでは議員定数の妥当性の判断はできないと考える。	—
集計	増やす・現状維持 現状維持 現状維持・減らす 減らす	2会派 1会派 1会派 2会派				

	議員定数について					
	意向	住民代表機能の維持	執行部に対する監視機能・政策提言機能の強化	これまでの削減実績	類似都市との比較による妥当性	その他
岩田議員	増やすべき	<ul style="list-style-type: none"> ・定数が増えればそれだけ市民中の政治意思を多く正確に反映できる。 ・減らせば、少数の政治的見解を意思決定の場から排除することになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定数が増えればそれだけ機能が高くなる。 ・定数が少なければそれだけ機能が低くなる。 	—	—	—
北森議員	増やすべき	<ul style="list-style-type: none"> ・自身が投票した人が議員となれば、住民の関心を市政に引き続けることができる。 ・いかに少数の意見までくみ上げることができるかを最優先に考え、より多数の議員定数とすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な経験、経歴を持つ議員がいれば、さまざまな観点から政策を検討することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・削減を「実績」とするならば、定数削減で声を取り込めなくなった市民がそれでも市政に関わっているのか(諦めずに投票に行っているか、市政から関心が離れていないか)、追跡調査をしてから評価すべき。 ・定数削減で、考えを一にする「会派」自体の数には影響があったか、無会派の増減には影響があったか、確認したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・類似都市でも定数削減で、考えを一にする「会派」自体の数には影響があったか、無会派の増減には影響があったか、確認したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議員定数削減するくらいであれば、一人当たりの議員歳費をどこまで抑えることができるかで調整すべき。